

 <p>一般社団法人 <b>日本看護研究学会</b> Japan Society of Nursing Research</p> <h1>ニュースレター</h1>	<p><b>第 6 号</b> 2021年12月1日 発行</p> <p>編集発行 <b>日本看護研究学会</b></p> <p>(事務局) 〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-24-1-4F 株式会社ガリレオ 学会業務情報化センター内 一般社団法人日本看護研究学会 事務局 TEL: 03-3944-8236 (直通) FAX: 03-5981-9852</p>
--	--

## 主な記事

理事長より / 学術集会情報 / お知らせ / WG活動報告 / 委員会活動報告  
委員会からのお知らせ / 地方会からのお知らせ / 編集後記

## 理事長より



一般社団法人 日本看護研究学会  
理事長 深井 喜代子

2020年7月に本学会の代表を仰せつかって1年半が経ち、当方の任期もあと半年となりました。川口前々理事長、宮腰前理事長の励ましを受けながらのスタートでしたが、折しも世界中がコロナ禍という状況下で不安しかありませんでした。正直なところ、近頃ようやくこのマンモス学会の概要と動きを把握し、学会のあるべきかたちを模索するに至った次第です。この1年半を振り返って、皆様とともに活動してきたことを整理してみたいと思います。

### 学生会員制度の新設

学会が抱える課題の1つは会員数で、2015年度に6,200名越えのピークを数えた後、2017年度からは毎年100名余りの減少が続いていました。地方会を擁する老舗の全国学会であっても、会員数が多いことが必ずしもステータスシンボルになるとは限りませんが、その減少傾向が数年間続いている現状を無視することはできません。そこで、その解決策を検討すべく、2020年11月にまずは将来構想検討委員会に諮り、入念な事前調査と慎重な協議を重ねました。そして2021年4月の理事会に審議事項として提出、理事・監事との間で積極的な議論が交わされました。こうした経緯を経て、2022年度から本学会に学生会員制度が発足することになりました。

### 国際誌JINRの創刊

今期、法橋理事の編集委員会委員長の就任により、和文誌の精力的な整備作業が行われました。しかし、伝統ある和文誌でもMedlineへの収録が難しいことが分かり、それならばと、急遽、会員待望の国際誌Journal

of International Nursing Researchを誕生させる運びとなりました。事務局を経験豊富な杏林舎に置き、法橋EIC率いる精鋭のEditorial Boardで活動を開始したJINRに是非ご期待ください。会員の皆様のJINRへの論文投稿と、周囲の方々への広報をお願いいたします。

### 実践研究活動推進ワーキングの新設

本学会は会員に看護実践者が多いという特徴を活かすべく、2020年度より、将来構想検討委員会の下部組織として新たなワーキングを立ち上げました。若村ワーキング長以下、斬新な活動を展開しています。是非ご参加ください。

### 遠隔開催形式の第46回、第47回学術集会の成功

そして、忘れてならないのは、学会最大の恒例事業である第46回学術集会（城丸瑞恵会長、2020年8月、札幌）、第47回学術集会（塩飽仁会長、2021年8月、仙台）の成功でした。未曾有のコロナ禍の中、初の遠隔開催でしたが、会長以下関係各位の筆舌に尽くせない努力により、大盛況に終えることができ、将来の輝かしい布石になりました。

このほかにも、国際活動推進（岡委員長）や大規模災害支援事業（中西委員長）など、すべての委員会が活発な活動を継続的に展開しています。これらの魅力的な活動が2022年度以降も引き継がれ、活発に展開していくことを切望します。会員の皆様方の一層のコミットメントをお願いするとともに、若い会員のエネルギーを得て、本学会が進化・成長していくことを願ってやみません。

## 学術集会情報

## 第47回学術集会報告



一般社団法人 日本看護研究学会  
第47回学術集会会長 塩 飽 仁  
(東北大学大学院医学系研究科)

一般社団法人日本看護研究学会第47回学術集会は、2021年8月21日22日にライブ配信を中心に開催し、その後オンデマンド配信を行い、9月3日(金)18時に、無事閉会することができました。

ご参加いただきました皆様に衷心より御礼を申し上げます。

また、ご講演いただいた先生方、演題発表をいただきました会員の皆様、交流集會を企画運営いただいた有志の会員の皆様、学術集會の企画と運営にご協力いただきました皆様にあらためて御礼を申し上げます。

COVID-19の影響下ではありましたが、学術集會を開催できたのは、皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

多くの学会がオンラインでの学術集會開催となり、一般口演演題を事前収録の動画をオンデマンド配信する形式を採用していましたが、今回は口演演題をライブ配信とし、示説をオンデマンド配信いたしました。できるだけ通常の対面での学会に近い形式で開催したいと考え、準備いたしました。すべての口演演題について、本学会としては2年ぶりのリアルタイムセッションでご発表いただけたことは本当によかったと感じています。

このような運営方法は、ふりかえるとかなり挑戦的、実験的だったと思います。郵送物をフライヤーだけにして、メールやwebだけで、大きな規模の学会を開催することが果たしてできるのかどうか、参加者を集めることができるのかどうかという課題が常にのしかかってきていたように思います。COVID-19の影響も予測がつかず、すべて手探りで準備を進めなければならないこともあり、機動性、柔軟性を重視して所属分野と学内の同僚の先生方のみで準備と運営をこなしました。

もう少し学会会員の皆様や参加者の皆様方へのサービス、多岐にわたるコンテンツを用意できたかもしれませんが、COVID-19の影響下での本務をこなしながらの学会運営の労力と経費、ノウハウの蓄積のなさか

ら考えると、必要最小限の内容とせざるを得なかったのが心残りです。

また、演題をご発表いただく皆様や参加者の皆様へのご案内等の連絡が滞ってしまったことについては、深くお詫び申し上げる次第です。

ともあれ、今は開催できたことに感謝し、安堵の気持ちで一杯です。

あらためて皆様にお礼をもうしあげます。

今回の学術集會の開催実施概要は以下の通りです。

**【講演】** 6題 (会長講演、特別講演2題、東日本大震災10周年講演2題、共催セミナー1題)

**【奨学会研究発表】** 1題

**【交流集會演題】** 14題

**【一般演題】** 160演題 (口演演題：44演題、示説演題：116演題)

**【参加者】** 725名 (学会員：553名、非学会員：172名)

**【オンデマンド講演視聴合計回数】** 1,877回

**【Web site Total Page View】** 17,716回

今後もCOVID-19の影響下での臨床、教育、研究活動が続くことになると思います。

皆様の精力的なご活動と誠意にこころより敬意を表するとともに、ご自愛を願ってやみません。

ありがとうございました。



学術集會を終えて最後まで残ってくれたスタッフとの記念写真

## お知らせ

## 名誉会員 石井トク先生がご逝去されました

永年に亘り本学会にご貢献をいただき2012年より名誉会員とられました石井トク先生が、2021年6月29日にご逝去されました。謹んで石井先生の御冥福をお祈り申し上げます。

## 第48回学術集会情報



一般社団法人 日本看護研究学会  
第48回学術集会会長 中西純子  
(愛媛県立医療技術大学)

第48回学術集会に関する第2報をお知らせします。

新型コロナウイルス感染症の第5波はワクチン接種率の高まりの効果か、なんとか収まりをみせ、経済活動が少しずつ再開されています。しかしながら、次の第6波も懸念されることから、第48回学術集会の開催方法につきましては、ハイブリッド開催の方向で、現在、検討を進めております。演題申し込み・参加申し込み案内を開始する年明け早々までには最終決定し、ホームページ上でご案内させていただきます。

開催概要(企画内容)につきましては、10月末日に学会ホームページに掲載しました。<https://www.jsnr48.com/overview.html>

特別講演では松山市立子規記念博物館総館長の竹田美喜氏から「子規・病牀六尺の世界とチームケア」と題してご講演をいただきます。子規は晩年、六尺の病牀さえ広すぎると感じるほどに、身動きならない激的な病状にありました。六尺の病牀に閉じ込められた子規の状況は、コロナ禍で抑制を強いられた我々の生活

と共通するところがあります。果たして、子規はそのような状況の中でどのように生きたのか、制限や苦難の中で人が生きることについて考える機会としたいと考えています。

また、看護学においてニーズの高い事例研究やフィールドアプローチ、多変量解析を用いた研究方法に関する教育講演を3題、看護との共通項がある他の学問分野(医学、臨床心理学、社会福祉学)における事例や症例の意義・価値について学び、実践と研究の往還について考えるシンポジウムや愛媛の地で看護の知を使って活躍している3人の実践家によるリレートーク等企画しております。

その他、市民公開講座として新型コロナウイルス感染症に関する講演及び中・高校生に看護のことをより良く知っていただく企画も用意しております。是非、一人でも多くの方にご参加いただけますようお願い申し上げます。

### WG 活動報告

## 実践研究活動推進ワーキング活動報告

実践研究活動推進ワーキング  
ワーキング長 若村智子

実践研究活動推進ワーキングは、会員の看護実践の質の向上に資する研究活動を推進し、支援することを目的とし、将来構想検討委員会の下部組織として新設され、2020年6月から活動を開始しています。

その最初の活動として、2021年8月に開催された第47回学術集会の本ワーキング主催の交流集会13で、「研究仲間を募る集会」を35名もの参加を得て行いました。参加してくださった方々の表情も反応もよく、有意義な集会でした。そして、その第2弾として、9月25日18:00~19:30に全会員に続編を開催しました(参加者18名)。そのときに、この集会の名前は、「仲間と研究をつなごう会」に決まりました。臨床の方の参加もあり、研究に関する困りごとの相談、情報交

換、仲間づくりのよい機会になりました。このような機会を作るニーズが、アンケート結果からも明らかになりました。

そこでつぎに、第3回(2021年12月13日(月)18:00-19:30)と、第4回(2022年3月4日(金)18:00-19:30)の集会をオンラインで企画します。詳細は、ホームページ、会員管理システムを通じてお知らせいたします。続編の企画にあたり、これまでどおり、「仲間と研究をつなごう会」の参加資格を、会員に限定するかどうかを検討しました。「臨床で研究活動の遂行に困っている人を支援することにこそ、日本看護研究学会の存在意義がある」ことになりました。そこで、評議員から有志を募り、この集会に非会員で参加

の方に、本学会入会を積極的にサポートする機会にいたします。非会員でも学会独自の集會に参加でき、それが入會の機会になれば会員拡大にもつながります。日本看護研究学会に関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、是非とも「仲間と研究をつなごう会」へ参加をお勧めくださいますようお願いいたします。

そしてさらには、年度内（2022年5月社員総会まで）に、研究方法に関するセミナーを、オンライン方式で行う予定です。本ワーキングの集會でヒアリング

した希望も参考にし、セミナー内容を決定する予定です。日頃から悩んでいること、困っていることがありましたら、是非、お聞かせください。微力ですが、日本の看護界全体の看護研究力の底上げにつながるような企画を考えていく所存です。

本ワーキングは、実践に役立つ研究成果に結びつくよう、どのような活動に取り組むべきかを、会員の皆様とともに探って参ります。忌憚ないご意見をお待ちしています。

## 委員会活動報告

# 大規模災害支援事業委員会

大規模災害支援事業委員会委員長

中西純子

長引くコロナ禍で生活が困窮する看護学生及び本学会員を対象に募集しておりました2021年度大規模災害支援事業につきましても、47件（看護学生45件、本学会員2名）の申し出があり、理事会で審議した結果、申請者全員に5万円/件の支援を決定致しました。申請された方たちの状況はアルバイト収入には個人差がありましたが、減額率はほとんどの学生が5割前後の減で最大では9割減、休業あるいは解雇されて次の就業の目途がたたない人もいました。アルバイトをしたくても、実習によるアルバイト禁止やもともと家計が苦しい人もあり、応募された学生さんの声は切実でした。10月には緊急事態宣言がすべて解除されましたが、すぐに元通りとはいかないなか、本会のこの事業が困っている看護学生及び会員の皆様を少しでも直接支援することができたのであれば幸いです。看護学生の申請にあたって、推薦の労をとっていただいた会員の皆様、ありがとうございました。コロナ禍の終息はまだ見えず、今後も楽観できる状態ではないことから、本委員会では引き続き学生の生活状況を見ながら本事業適用の可否を検討していきたいと思っております。

また、今年度は幸い現在のところ、大規模な自然災

害を対象とした支援事業の適用には至っていません。しかしながら、自然災害はいつ何時発生するかわからないことから、災害支援を目的としたご寄附の受付は常時行っております。1口（2,000円）から何口でも結構ですので、引き続き皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。払い込み先は以下のとおりです。

なお、平成23年度から令和2年度までにお寄せいただきましたご寄附総額は11,652,455円、これに、本会の学術集會からのご寄附や一般会計等からの補てんを加え、平成23年度から令和2年度までの248件に今回のコロナ禍支援を加え、計295件、総額約2,435万円を支援させていただきました。改めて御礼申し上げます。

### 〈払い込み先〉

#### 【ゆうちょ銀行からお振込みの場合】

ゆうちょ銀行 00140-7-514019

日本看護研究学会大規模災害支援事業委員会

#### 【ゆうちょ銀行以外からお振込みの場合】

ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキユウ）店

当座 0514019

日本看護研究学会大規模災害支援事業委員会

**委員会からのお知らせ****■国際活動推進委員会より**

国際活動推進委員会は、今年2月の講演に引き続き、本学会会員向け無料のオンラインセミナーを、またまた計画しております!!今回は、オーストラリア、Griffith大学教授Wendy Chaboyer先生にご講師をお願いして、「Developing and pilot testing complex interventions」というテーマでご講演いただく予定です。本講演は、日本語の逐次通訳もつけてオンデマンドで配信いたしますので、ご都合の良い時にいつでもご視聴いただけます。11月に録画を行い、年内には配信するという計画で、現在はWendyと連絡を取りながら準備を進めております。配信準備ができ次第、メールなどでお知らせいたしますので楽しみにしていただければと思います。(もしかしたら、このNLが皆さんのところに届くころには、配信が始まっているかもしれませんね!)

**■将来構想検討委員会より**

将来構想委員会は、理事長を長とし、学会の将来にかかわる重要な事案が生じたときに招集され、理事会で審議する前に上記のメンバーで内容を検討する組織です。2020年度には近年の課題である会員数減少問題を取り上げました。各種調査と協議を重ねて、学生会員制度の新設という形で、理事会で審議しました。そして、2021年4月と5月の理事会、そして6月の社員総会でそれぞれ承認され、2022年度から学生会員制度が発足することになりました。

2020年度からのもう一つの活動として、この委員会の下部組織として、実践研究活動推進ワーキングを立ち上げました。本学会の特色を生かした新たな委員会活動がスタートしています(WG活動報告の項参照)。

**地方会からのお知らせ****■東海地方会**

第26回 社)日本看護研究学会東海地方会学術集会は、新型コロナウイルス感染拡大予防を鑑み、講演をWEB開催(ライブ配信)、一般演題を誌上発表といたします。皆様のご参加心よりお待ち申し上げます。

会 長：斎藤 真(三重県立看護大学生体情報学)

期 日：2022年3月5日(土) 10:00~15:00

テーマ：「看護学と工学の接点」

プログラム

I. 講演「看護大学における人間工学の教育について」

斎藤 真(三重県立看護大学)

II. 講演「看護領域における知的財産について-看工連携事業の推進-」

黒瀬 昭博((一社)発明推進協会)

III. シンポジウム

「看護学と工学の接点と連携-看護学に工学的視点からアプローチする若手研究者たち-」

シンポジスト：市川 陽子(三重県立看護大学)

稲垣 圭吾(浜松医科大学)

金盛 琢也(浜松医科大学)

長谷川智之(三重県立看護大学) (五十音順)

コメンテーター：鈴木みずえ(浜松医科大学)

司 会：斎藤 真(三重県立看護大学)

IV. 一般演題 抄録による誌上発表

## ■中国・四国地方会

本地方会は、1986年以来「自由で自立した精神」をモットーに活動を継続しています。COVID19は終息に向かいつつあるものの未だ予断を許しません。そのため2022年3月開催の第35回学術集会もWebでの開催となりました。しかし、移動の負担がないというメリットもあります。中国・四国地区の会員だけでなく、全国からのご参加も歓迎いたします。

### 【中国・四国地方会 第35回学術集会案内】

開催期日：2022年3月6日（日）～3月20日（日）Web開催（オンデマンド配信）

実行委員長：内海 知子（鳥取看護大学看護学部）

テーマ：地域包括ケアの実践と検証

教育講演：筒井真優美「看護の未来を創造するアクションリサーチ—人々とともに・人々のために—」

特別講演：東 めぐみ「看護の質を高めるリフレクション」

学術セミナー：地方会学術委員会企画「調査票の作成」

シンポジウム：「地域包括ケアの実践と検証」

<http://nr-35chugokushikoku.kenkyuukai.jp/special/?id=36254>

## ■九州・沖縄地方会

九州・沖縄地方会の会員数は752名（令和3年9月16日）と昨年度と比較すると、若干減少しております。また、昨年度地方会役員改選があり、今年度から3年間は新たな役員体制で運営をすすめております。

令和3年度も、毎年恒例となっております九州・沖縄地方会ニュースレターを9月末に発行致しました。恒例の学術集会は、「危機の時代 未来を切り開く力を育む」をメインテーマとして、令和4年1月29日にハイブリッド方式で開催する予定です。（学術集会長：久留米大学医学部看護学科 三橋睦子教授）。令和4年度学術集会は、熊本保健科学大学看護学科 荒尾博美教授のもと、「よりよい看護実践を目指す科学的探究（仮）」をテーマに、令和4年11月26日（土）開催する予定となっております。

### 2022年度から学生会員制度が発足します。

現役学生を含む、若い看護学研究者の活躍を期待しています！

詳しくは『定款第3章（会員）』

<https://www.jsnr.or.jp/outline/regulations/articles.html>

を参照ください。

### — 編集後記 —

ニュースレター2021年第6号を皆様にお届け致します。

2022年度から本学会に学生会員制度が発足致します。会員の皆様におかれましても、周囲の学生の方々にお知らせいただき、本学会の発展にお力添えをいただければと存じます。

COVID-19を巡る環境も変化しております。環境の変化に順応するのはたやすいことではありません。皆様におかれましてもご自愛下さい。

（井上）